

智頭宿の風情にマッチ

風情ある街並みが残る智頭宿（智頭町）の魅力向上を図ろうと、智頭農林高が藍染めのれんと格子戸を製作した。18日に同宿内でお披露目し、依頼した地

域住民らに引き渡した。住民の意見を町政に反映させる町百人委員会中高校生版事業の一環。宿内の景観維持などに取り組む住民団体「Prese



取り付けられた格子戸の前で、藍染めしたのれんを披露する生徒たち。18日、智頭町智頭

藍染めのれんと格子戸、智頭農林高が製作

「Prese 智頭宿」（木田いずみ代表）などが協力。格子戸は森林科学科の2年生と3年生の2人、藍染めのれんは生活環境学科3年の12人が取り組んだ。

藍染めは工房「ちずぶる」にサポートや指導を仰ぎ、5種類ののれんを完成させた。依頼主の趣向に合わせてフクロウやヒマワリ、千代川の流れをイメージしたものなど工夫。諏訪酒造ののれんは縦2倍の大作で、光籐美季さん(17)は「ロゴをかたどるのが難しく、ムラになったりして大変だった。飾られるのが楽しみ」と笑顔を見せた。

格子戸は地元の中村建装が外枠を作り、建具店の藤縄薫さん(63)の指導で丁寧仕上げた。開閉式で鍵も掛けられるなど使い勝手が良く、依頼者の白間敏さん(71)は「立派な格子で、家族で大変喜んでいいる。家の価値が上がったような気分」と満悦。

格子戸を担当した森田彪さん(17)は「少し狂うと組み立てられないので難しかったが、達成感がある。喜んでもらえたら」と話した。

(藤田和俊)

【本誌HP】動画

2018年1月19日（金）日本海新聞

『智頭宿の風情にマッチ』